

北海道乳幼児療育研究会
第37回 研究大会 ミニ講話

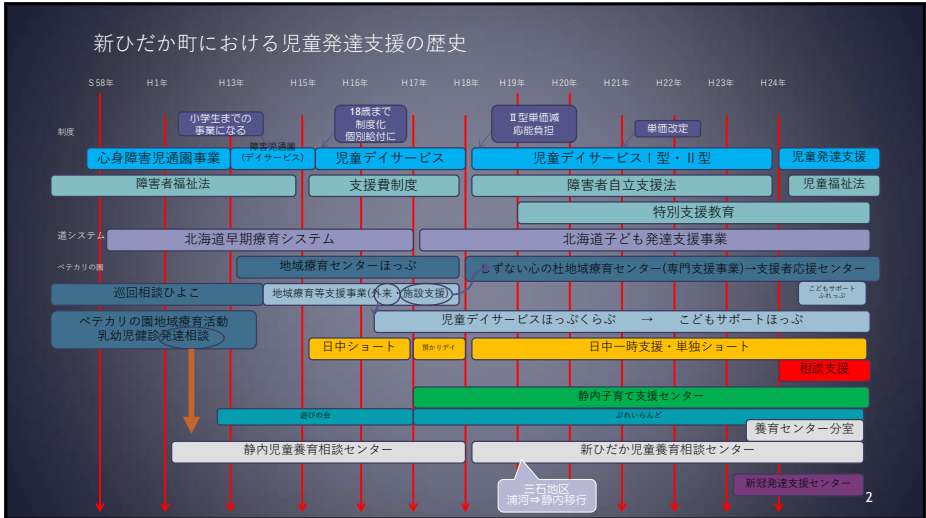
『自分が取り組んできた療育、大切にしている療育』

通園施設の療育で大切にしていること、大切にしてほしいこと

社会福祉法人静内ペテカリ 総務部
八木沢 博光

令和5年10月14日

1



30年間の反省
『あの時出会った方が大人になって…。』

①偏食で食べられるメニューが少なかったAさん
今では、たくさん食べて肥満になってしまい
『あまり食べるな』と言われます。

②お母さんがいないと泣いてしまうBさん
18歳になって聞いてみたら、寂しいわけじゃなくて、怖かったそうです
自分は歩けなかったし、走ってくる人とか怖いです。
特に、節分の豆まきは最悪で、なんてことするんだと思った。

3

30年間の反省
『あの時出会った方が大人になって…。』

Cさんは摂食の訓練をしていましたが、本当は丸のみでもいいから自由に食べたいと思っていたそうです。
ただ、よだれが出でてしまうのは恥ずかしいので頑張って練習しました。

④ 『訓練に行きなさい』とお母さんに言われて通っていましたが、嫌な時間じゃなかったし、大人が一生懸命に自分と遊んでくれる時間は楽しかった。

4

30年間の反省

『あの時出会った方が大人になって…。』

2歳から通っていた子の母です。周りのお母さんが一生懸命で自分も頑張らなきゃと思っていました。

重度の障がい保育所には入れなかったし、学校に入ってから、送迎や食事などの時に学校に行っていた。

卒業して、デイサービスに週2回と入浴サービスなども使った。自分が深夜のコンビニの仕事を始めて、夜はお父さんに見てもらっていた。でも朝の準備ができなくて、通所の送迎に間に合わなくなってしまうことが多くなってしまいました。今は短期入所などのサービスも使っています。本人は何も変わっていません。

5

先輩から教わってきた療育①

新ひだか児童養育相談センターの場合

『療育とは』

～ きめの細かい ちょっと気の利いた子育て ～

『通園施設は』

- いつでも、どんなことでも気軽に相談できる
- 地域の関係機関と顔の見えるレベルでつながっている
- 主体が家族にある

6

先輩から教わってきた療育②

支援者応援センターから学ぶ

『専門性は必要だが、専門職を売りにしない』

- 専門職は二次的支援に
- 選択肢のない地域では、障害種別、分野の限定された通園を作ると、該当できない方が出てくる。

『二次療育圏域

静内ペテカリの園地域療育センター(専門支援事業)のちに、『支援者応援センターから学ぶ』アウトリーチの支援、現場職員の応援

7

先輩から教わってきた療育③

こどもサポートほっぷ

- 平成16年 児童デイサービスほっぷくらぶ開始後の放課後等デイサービス
- 平成23年 『こどもサポートほっぷ』へ名称変更

- 最初は発達支援センターから移ってくる方が多かった
- 徐々に利用目的が変わってきた。
- 療育→発達支援→地域生活支援(こどもバージョン)
- 『事業目的 子どもたちが住んでいる地域で、その子らしく生きていくことを目指し、自立を見据えた支援をします』

8

自立を意識した支援を

『自立ってどういうこと』

- 働いて一人で生きていくこと = 独立
- だれにも頼らずに生きていくこと = 孤立
- 周りに頼れる人がたくさんいること = 自立

『自分らしさを大切にして生きること』

- 乳幼児期も大人になってからも
- 障がいがあってもなくても

9

本人が目的を持って利用してくれること

どんな状況にも対応できるように…。

- 日中一時支援併設
- 単独型短期入所(児童) ← 現在休止
- 支援者応援センター
- 選択型の行事
- お仕事グループ
- 応援ミーティング
- 子育てミーティング

10

制度の移り変わり

『20年で福祉制度がいろいろ変わった』

- 通園事業 ⇔ 障がい児通園(デイサービス)事業
- 支援費制度 ⇔ 児童デイサービス
- 障がい者自立支援法 ⇔ 児童デイⅠ型・Ⅱ型
- 障がい者総合支援法 ⇔ 児童通所支援
児童発達支援・放課後等デイサービス
- 『事業補助→個別給付→契約制度』
- サービスの利用者、サービス提供者という関係
- サービスというには、選択の余地が利用者側にあること

11

地域が変わってきた

- 子どもが減ってきたこと
- 共働きは当たり前
- 特別な場所よりも通常の場所で
- 障がい特性は 多様性として受け入れられる?
- 困っているのは、障がいをもつこともだけじゃない。
- 生活困窮・学力低下・虐待・不登校・家庭養護困難
- 子どもすべての困り感にかかわっていく必要がある。
- 学校がなくなる、子供会もなくなる。居場所がない。

12

大切にしてほしいと

- 『療育』という言い方が適切なかわわからないが『きめの細かい ちょっと気の利いた子育て』という捉え方であれば、現在もそのスタンスは変わらないと思います。
- ただし、その対象となる方は、障がいのある子どもとその家族ではなく、子育てに困り感を抱えているすべての子どもとその周りのひと。

13

まとめ

『一人ひとりの生き方に寄り添って、将来を見据えて今できる事を一緒に考える』

文章ではカッコいいことを言えますが、現実はそのことのできるのかなあと反省します。

ただ、人生で一度しかない子ども時代の楽しみを奪ってしまわないように、相手にとっても、自分にとっても『この人に出会えてよかった』と思えるような関係が作れたらと思います。

14